

沖縄ヘイトが酷すぎると

沖縄の米軍基地反対運動をリポートした東京MXテレビの番組に批判や抗議が相次いでいる。



1月19日には東京・麹町の東京MXテレビ前で、市民有志による抗議集会が開かれた

1月中旬、沖縄県東村高江を訪ねた。番組で「過激派デモの武闘派集団『シルバー部隊』」と紹介された人々がそこにはいた。「本土では金儲けのために反対している」と思っているのかね

」

日焼けした顔にんなつこい笑みを浮かべる沖縄の高齢者。沖縄戦や戦後の基地被害を肌身で体験し、「子や孫のために」とやむにやまれぬ思いで運動に加わる人たちだ。一人は深刻な表情でこうつぶやいた。

「悲しくて笑い飛ばす氣にもなれんよ」

立ちレボも演出

東京のローカル局、東京メトロポリタンテレビジョン（MXテレビ）が1月2日に放送した番組「ニュース女子」が波紋を広げている。「マスコミが報道しない眞実」と題し沖縄の基地問題を特集。軍事ジャーナリストの井上和彦氏による「現地リポート」が流れた。

実は、トンネルを抜けても、高江にはまだ遠い。井上氏が「足止め」されたと嘆く（二見杉田トンネルから高江まで、車を走らせてみた。所要時間は約50分、走行距離は45キロだった。東京駅を起点とすれば、西は八王子、東は千葉市までの距離に相当する。東京都心で起きた事件を千葉で「立ちレボ」する記者などいない。それでも同番組にかかる

ではない。名護市内のトンネル手前で車を降り、「ここから先は危険」と高江取材を断念。カメラはトンネル入り口を映しながら、その先に暴力渦巻く闇があるかのような演出をする。だが、高江でも辺野古でも、あらゆるメディアが自由に取材活動をしているのが現実だ。

実は、トンネルを抜けても、高江にはまだ遠い。井上氏が「足止め」されたと嘆く（二見杉田トンネルから高江まで、車を走らせてみた。所要時間は約50分、走行距離は45キロだった。東京駅を起点とすれば、西は八王子、東は千葉市までの距離に相当する。東京都心で起きた事件を千葉で「立ちレボ」する記者などいない。それでも同番組にかかる

れば「現場取材」となるのだ。井上氏が言うところの「反対派の連中」の「暴力性」を、具体的な根拠も示すことなく印象組HPには「タテマエや綺麗ごとは一切なし! 本音だらけのニュースショー!!」と記されている。運動参加者の思いを代弁する者が一人もいないスタジオで、顔にモザイクをかけた画像を何度も流し、「テロリスト」呼ばわりしてはやし立てる構成は、「ニュースショー」というより集団リンチのように映った。

「日当2万」のデマ

悪質なデマの極めつきは、米軍普天間飛行場周辺で見つかってされる「2万」と書かれた茶封筒だ。地元では名の知れた「基地建設賛成派」住民から提供されたという、この「物証」のみをもって、「反対派は日当を貰っている!」「何らかの組織に雇われているのか」といったテロップやナレーションが流れられる。茶封筒がなぜ、「日当」と結びつかのかの説明は一切ない。

「あきれた話だ」と不快感を抱くに付けるのは、抗議活動の指揮を執る沖縄平和運動センターの大城悟事務局長。

「一部の団体指導者らに交通費など実費が支給されることはあるが、ほとんどの参加者は自費

で駆けつけている。日当などあるわけがない」
番組に「茶封筒」を提供した沖縄の保守系活動家・ボギー手登根氏にあらためて問うと、こう答えた。

「日当だと断言したわけではない。私は（番組の）構成に関わっていないのでわからない」

番組は人種差別に反対する市民団体「のりこえねっと」が、高江に「特派員」を送ったことに関して、「財源は何か」と、怪しげな活動であるかのように報じた。「特派員」に選ばれて高江に赴いた男性はこう語る。

「支給されたのは5万円のみ。これで往復交通費、レンタカー代、宿泊費を賄えるはずもない。特派員としてリポート提出の義務もある。金目当てならばバイトしたほうがよほどいい」

「財源」が市民からのカンパであることと含め、特派員の募集要項などは公式サイトやネット番組で告知されている。

「のりこえねっと」の辛淑玉共同代表は番組側からの取材は一切なかつたと明かし、「沖縄とも放送倫理・番組向上機構（BPO）」に人権侵害を申し立てる。他にも、▽反対派が救急車を止めていて現場に急行できない。



YouTubeには番組がアップされていて、ネット経由でだれでも視聴できる（YouTubeから）

▽警察の取り締まりが消極的なのは、県警トップが（辺野古基地に反対する）翁長雄志知事だから▽反対運動の現場には韓国人や中国人がいる▽沖縄の大多数の人からは米軍基地に反対とは聞かない——といった内容が伝聞や推測を交えて報じられた。

嘘は「意見」ではない

江地区を担当する地元消防は「そうした事例はない」と明確に否定した。県警トップである沖縄県警本部長は国のキヤリア官僚で、知事に捜査を直接指揮する権限がないことは、メディア関係者であれば知らないほうがおかしい。MCを務める中日報がおかる。東京新聞論説副主幹の長谷川アダムは、「そこまで言つて委員会NP」（読売テレビ）などの番組制作もしている「ボーアイズ」の2社だ。事実誤認について尋ねたが、両社とも期日までに回答はなかつた。

一方、MXテレビは1月16日の番組終了時、「沖縄リポートは議論の一環として放送」「今後も様々な立場の意見を公平・公正にとりあげていく」と発表した。19日、市民有志がMXテレビ前に集まり、番組の訂正と謝罪を求め、こう訴えた。

「嘘は『意見』ではないし、誹謗中傷は『議論』ではありません」。番組が残したのは差別と偏見、そして関係者の深い傷痕だけである。

ジャーナリスト 安田浩一
編集部 渡辺 豪

幸洋氏が、これに何の訂正も加えなかつたことには首をかしげざるを得ない。

退役米軍人など多国籍の人たちも集まっていることはメディアが報じている。ことさらに韓国人・中国人を強調するところに、人種差別的な視点が透けて見えるよう。沖縄県民を対象とした各種世論調査では、辺野古基地建設に関して「反対」が賛成を大きく上回ることを知らないれば勉強不足もいいところだ。

番組を制作したのは化粧品販売大手DHCグループ傘下の「DHCシアター」と、「そこまで言つて委員会NP」（読売テレビ）などの番組制作もしている「ボーアイズ」の2社だ。事実誤認について尋ねたが、両社とも期日までに回答はなかつた。

私は昨年3月まで6年間、BPO（放送倫理・番組向上機関）委員でした。放送への苦情や放送倫理の問題に対応する第三者機関で、「放送倫理検証委員会」「放送人権委員会」などで構成しています。

沖縄・南大東島の農家が別荘を持つような裕福な暮らしをしていると放送して村から抗議を受け、局側も謝罪しました。委員会は、意図的に事実を歪め、視聴者を誤った認識に導く演出が行われた点を、日本民間放送連盟の放送基準の「個人・団体の名誉を傷つけるような取り扱いはしない」といった規定に照らして検討し、放送倫理違反と断じました。今回も事実を歪め、過激派が反対しているというストーリーをつくりうとしており、私は放送倫理違反だと思います。外部提供番組でも、妥当性を判断する立場にある東京MXテレビの責任は免れないと思います。

元BPO委員の香山リカさん（精神科医）が語る 地上波の沖縄差別に衝撃



辛淑玉さんの申し立ては放送人権委の担当です。辛さんは番組で、怪しい人物であるかのように扱われており、人権侵害に当たると思います。

放送倫理検証委でどう取り扱うかも焦点です。局や制作会社側は、表現の自由の範囲内とアピールする可能性もあります。確かに、伝聞や推測を並べ、断言を避ける形で番組は展開しています。ただ似たケースとして思い出したのが、2011年にテレビ東京が放送した「ありえへん∞世界」という番組に対するBPOの判断です。